

「ふえき通信」

障がいがあっても

住みやすい笛吹市にするために…

市民ミーティング、

開催されました!!



7月12日の土曜日、笛吹市ふれあいの家を会場に行われたハートランドふえき祭りは、好評のうちに幕となりました。ハートランドふえきは、障がいを持った方々との交流を目的とした祭りです。市内からは多数の方が来場され、各種模擬店やステージで、皆さんで楽しみました。

ご来場して頂いた方々には心より感謝いたします。

さて、今回のハートランドふえき祭りには、特に力を入れたイベントがありました。それは、笛吹市倉嶋市長と市民で作る「市民ミーティング」。障がいがあっても住みやすい笛吹市にするためにはどうしたらいいのかをテーマに、皆で話し合う場は無いものかと言った意見があり、ハートランドふえき祭りのメインイベントとして何とか実現させたいと企画した物です。

市長には直接話を聞いて欲しいと、予定よりはる



かに多い70名の方が集まり、会場に入りきらないほどでした。

10時15分。ミーティング開始と同時に、様々な意見を市長に投げ掛けました。



行政側 倉嶋市長、遠藤福祉事務所長、
飯島福祉総務課長、障害福祉
担当茂手木リーダー

司会者 自立支援協議会当事者・
家族部会代表 高野
聴覚障害者 羽田
身体障害者 三枝

「意見のまとめ」

誰もが障がい者になり得る可能性をもっており、また、障がいや病気による苦しい人生は、自ら選び取ったものではない。障がい者も共に社会生活を営む市民として、理解し、認め、役割のある社会を作してほしい。

市民の立場で日常的に作っていく福祉の必要性を感じており、ボランティア活動を更に活性化させるようなシステムを検討してほしい。また、障がい者や社会的弱者から学びやすい街づくりは、全ての人々に必要なものであるので、実現してほしい。

支援学校に通学する子ども達の放課後支援サービスが不足しており、放課後の活動場所を増やして欲しい。また、市内学童保育を強化して支援学校通学児童の受け入れも検討してほしい。

山梨市の障害者住宅に子どもだけ住んでいるが、制度・サービスが市町村で違い、年齢を重ねると生活圏が広範囲だと負担が大きくなる。地元で暮らせるように障害者住宅を笛吹市に作してほしい。

自閉症が重い子どもの支援学校卒業後の受け入れ施設が少ない。受け入れ先を増やして欲しい。

重度障害者であっても、もっと自由に外出できるように、障がい者の移動の課題についても考えてほしい。

駅周辺に障がい者の交流の場、気付いたことを行政に伝えられる場、高齢者の集える場所としての機能をもった、福祉会館を作りたい。

手話言語条例の制定をお願いしたい。

様々な意見を受け、倉嶋市長から最後には「言い訳せず、まっすぐに皆さんの意見を受け止めて、福祉の前進のため、文字通りの「ハートランド」実現のために頑張っていく」と、力強いメッセージを頂く事が出来ました。

設定した1時間を越え、終了時間を過ぎても「言いたいことはもっとある」「1回だけでは勿体無い」「続けてもらえないだろうか」等の声を受けつつ、大好評のうちに市民ミーティングは終了しました。

ハートランドでの市民ミーティングは終了ですが、一度のミーティングで多くのことを理解出来るわけでは有りません。今後このような場を多く提供出来たら・・・と考えています。

「平成26年度朗読奉仕員養成講座」終了いたしました。

今年度の朗読奉仕員養成講座が終了し、新しい奉仕員が誕生しました。

これは、広報誌等をCDに録音し、目の障がいを持つ方に配布するとき等に活躍して頂ける奉仕員を養成するものです。

今年も水曜の夜間に講座を開きました。

最終日となったこの日には、一人ひとりに修了書を手渡し、今後の活躍を願いました。

